



2020年11月10日発行  
 特定非営利活動法人  
 盛岡YMCA  
 〒020-0015  
 盛岡市本町通 3-1-1  
 Tel 019-623-1575  
 Fax 019-623-1579  
 www.moriokaymca.org  
 発行人/ 渡塚 有史  
 編集/ 本部事務局

# YMCA News

# 11



## 新型コロナウイルスとの共存

16 平和と公正を  
すすめてのみに



今夏、遠野市でも新型コロナウイルス感染症が確認されました。まず、全国的に問題となっていた誹謗中傷をどう防ぐか、生徒の不安をどう払拭するか...。日本赤十字社発行の『新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう〜負のスパイラルを断ち切るために〜』が、これを解決してくれました。

感染が確認された翌日、全学級でいただいた冊子を使って授業を行いました。生徒たちからはこんな感想が寄せられました。「感染者はでたけれど、差別や心ない言葉を言わず、感染した人の気持ちを考えて行動したい」「自分も罹ってしまったら怖いけれど、他の人が罹ってそれを差別するのは悪いことだと思う。不安と恐れに負けないようにしたい」「コロナはみんなの心にまで感染していく。それを跳ね返すにはみんなの協力が必要だと思う。しっかり自分の行動を見つめ直していきたい。」など、自分のことだけではなく周りを考えようという素直な気持ちに嬉しくなりました。

本校は、いつも地域の方からたくさん応援いただきながら教育活動を行っています。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、今年度は地域の方々との交流もほとんど行えていません。

地域との関わりが薄れるのではないかと心配していましたが、この授業を通して、生徒たちは、いつも通り自分の地域と地域の人たちを大切に考えていることがわかりました。また、地域内でも感染した方々を心配する声が多く聞こえてきます。生徒たちの気持ちが伝わっていったのかもしれない。

新型コロナウイルス感染症とはしばらく共存することになるでしょうが、今回、周りの人と関わり方、周りの人を大切にする心を学んだことで、コロナウイルスを優しさで包み、予防できるのではないかと考えています。

遠野市立遠野中学校副校長 西田牧恵

### 盛岡 YMCA の使命

私たち、盛岡 YMCA は、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

## 9月野外活動報告



こんにちは!はっちです!9月27日に行われた野外活動では、岩手山に登り、七滝を見に行きました。今回は、2人のスタッフと、11人のリーダー、そして30人の子どもたちでの活動となりました。

バスに乗って盛岡駅から出発。バスの中ではリーダークイズをしたり、歌を歌ったりして盛り上がりました。バスが八幡平県民の森に着き、いよいよ登山へ。「みんなで協力して滝を見に行くぞー!」という掛け声をみんなでしてから、登山に臨みました。登山道にある木の実や葉っぱなどをたくさん集めている子や、歌を歌っている子、替え歌をしている子、クイズをしている子などがいて、それぞれ楽しみを見つけながら登っていました。上り坂や足場が悪いところもあり、体力的にきつい、しんどいとなってきたときに、水の音が聞こえてきました。滝に近づいてきたと分かり、「あともうちょっと!」と声をかけあいながら一生懸命歩を進めていました。滝に着いたときには、達成感や嬉しい感情が表情から伝わってきました。

滝に着きご飯を食べたのですが、強い雨が降ってきて、かっぱを着たりレジャーシートを屋根がわりにしたりしてのご飯でした。なかなか大変な状況でしたが、その状況すら楽しんでいる子もいて、自然そのものを楽しんでいました。

ご飯を食べたあとは、下山の開始です。下山のときもそれぞれ違う楽しみを見つけ、それぞれの遊びをしながら下山しました。午前からずっと歩いてしんどくなってきた友達に、「がんばれ!」と励ましている子どもの姿も見られました。先に到着した子どもたちはみんなバスの中でプログラムをしました。最後のジュエスチャーゲームでは、男の子たちがみんなでゴキブリのジュエスチャーをしていて、とてもにぎやかな時間でした。

今回の活動で子どもたちのたくましい姿をたくさん見ることが出来ました。とっても楽しかったです。ありがとうございました!

岩手大学3年 佐藤亜美(はっちリーダー)



## 9月サンデースクール報告



今年初のサンデースクールとなった9月の活動では、キンボールを行いました。キンボールとは、大きなボールをチームのみんなで協力して落とさないように打ったりキャッチしたりするスポーツです。

また、キンボールは、勝ち負けよりもみんなで楽しむことを目的にしているスポーツでもあり、このような勝ち負けにこだわらないスポーツをニュースポーツと言います。私自身も、今回の活動を通して初めてニュースポーツという言葉を知りました。リーダーのみんなもニュースポーツとは一体どのようなものなのか考え、意識しながら、活動の展開を考えました。

当日参加した子どもたちは、幼児から中学生と年齢層が広がりましたが、幼児からそして大学生のリーダーたちまで、みんなが楽しむことができました。3チームに分かれて5試合行いましたが、試合の勝ち負けを気にする子どもはおらず、試合の中で一つひとつの瞬間を楽しんでいるようでした。一人で大きなボールをキャッチできた

ことを褒め合う子どもたちや、空いている位置に行くよう仲間に上手に指示を出している子ども、「やったね!」と仲間に駆け寄り、喜びを分かち合う子どもたち、様々な姿が見られました。キンボールは、どんな年齢層でも一緒に楽しむことができ、一人ひとりが主役になれるスポーツだと感じました。

コロナウイルスの流行により、今回の9月サンデースクールが今年初の活動となってしまいましたが、人に会わなかった自粛期間を経て、大人数で集まって一つのスポーツを行う楽しさと、子どもたちやリーダーたちと一緒に活動を行える喜びを再確認する機会にもなりました。また、私自身初めてメインとして活動を進めましたが、大きな自信にもつながりました。子どもたちにとっても「楽しかった! また来たい!」と思える活動になっていれば嬉しいです。

岩手県立大学3年 小田愛海(クララリーダー)



10月18日に高松公園クレーグラウンドで第9回盛岡YMCAチャンピオンズカップが開催されました。参加申し込みは約100名。歴史の中でも参加者の多い大会となりました。しかし、前日に天候不良により、運動会が延期になってしまった学校があり、申し込みをいただいた全員での開催とはなりません。全員がそろえなかったのは残念ではありましたが、その中でも参加した各スクールの選手同士がお互いを尊重しあい、大会全体として明るい雰囲気です。1日を終えることができました。

チャンピオンズカップとは、盛岡YMCAが実施している土淵・宮古・高松・向中野・篠木・本町のサッカースクールが一堂に会し、それぞれのスクールごとにチームを組み、対抗戦を行なうという大会

です。他の盛岡YMCAで行なうサッカー大会と違うのは、普段のサッカースクールと一緒に練習している仲間たちだからこそ、相手に本気で勝ちたくなる。負けたときに本気で悔しくなる。そのような気持ちを感じて欲しいという思いから始まりました。チャンピオンズカップを終えても各スクールで「来年は勝つ!」「今年惜しかったな...」とチャンピオンズカップの話が出てきます。各サッカースクールで練習内容も参加人数も雰囲気も違います。しかし、盛岡YMCAのサッカースクールという点では同じ仲間です。

このような状況の中、開催するかしないか迷いましたが、実施できてよかったと思えるとてもいい大会でした。

ディレクター 向平悟



## 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!」全県配布報告

2020年3月に、「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!～負のスパイラルを断ち切るために～」が発行されました。発行された段階では、岩手県におけるコロナウイルス感染者の報告はありませんでしたが、全世界で爆発的な流行を見せていたコロナウイルス罹患患者が出た際に、嫌悪・偏見・差別をすることなく生活することが出来るよう、正しい知識の啓発のため、盛岡市内の小学校への冊子配布を日本赤十字社岩手県支部へ打診したところ、ご快諾をいただきました。データとして出されていた「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!～負のスパイラルを断ち切るために～」を、B6サイズの小冊子として作成し、盛岡YMCAの放課後児童クラブに通う子どもたちにも協力してもらい、趣意書を挟み込み5月に盛岡市内小学校への配布と、盛岡市近郊のJRC加盟小中学校への配布を行いました。

その後、日本赤十字社岩手県支部と、JRC役員校盛岡市内3つの小学校と2つの中学校の児童生徒の皆さんのお力をいただき、8月～9月にかけ全県のJRC加盟小中学校に配布をいたしました。

7月29日に岩手県で初となる感染者の報告がされ、その後毎月感染者の報告がされています。今回巻頭言を書きいただきました中学校の地域では、クラスターが発生し学校での指導に苦慮されたことが書かれておりますが、そのような中にあり配布した冊子が活用されたことを嬉しく感じると同時に、コロナウイルス感染症に対する正しい知識を一人一人が持ち、嫌悪・偏見・差別をすることなく生活することにつながってほしいという思いを、再度強く感じました。

今後もYMCAとして、コロナウイルス感染症に対する正しい知識と対応を職員がしっかりと持って活動を行うほか、YMCAに集う子どもたちや置かれた社会に伝えていくことが必要と考えています。

終わりになりますが、冊子の全県配布に多大なお力添えをいただきました、日本赤十字社岩手県支部組織振興課の種田伸吾様、川上良治様、並びに趣意書の挟み込み作業をいただきました、児童、生徒の皆様は心より御礼申し上げます。

盛岡YMCA 浅沼慧

再び、時間(カイロス)について

以前も触れたがギリシャ語には「量的な時間」を示すクロノスという言葉と「質的な時間」を示すカイロスという言葉がある。今回このカイロスという時間について考えてみたい。

サンテグジュペリの物語に登場する星の王子様は、仲良くなったキツネからひとつの言葉を受け取った。「...それは、なんでもないことだよ。心でみなくちゃ物事はよく見えないってことさ。かんじんなことは、目にみえないんだよ。」どういう意味か思案している王子様にキツネはこうも付け加える。「あんたが星に残してきたバラの花をととても大切に思っているのはね。そのバラのために時間をムダにしたからさ。」どうやらキツネは王子様がバラのために水をやったり、毛虫をとったり、風から守ったりして自分の大切な時間を使ったからこそ、本当に大切な事柄を素直な目で見たり、心の耳で聞くことができるようになったと言いたかったみたいだ。

YMCAの学生リーダーたちは、雨の日も、風の日もサッカーや水泳、野外活動のプログラムにやってくる。もちろん、無償だ。それどころか、交通費もかかる。費やした時間を時給に換算すると相当な金額だ。今の時代の感覚からすればおそろしく「ムダ」に見えるかもしれない。しかし、それとは引き換えに、参加している子ども達、リーダー仲間、YMCAに関わる様々な人たちとの出会いを通して、本当に大切なものを得ているのだと思う。日々追い立てられる量的な「クロノス」という時間に支配された世の中において、彼等はそれとは別の、質的な「カイロス」という時間を過しているに違いない。

「神のなされることは皆その時にかなって美しい。神はまた人の心に永遠を思う思いを授けられた。それでもなお、人は神のなされるわざを初めから終わりまで見きわめることはできない。」

(口語訳聖書 伝道の書 3章11節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

「ぶたのたね」

佐々木マキ著 絵本館

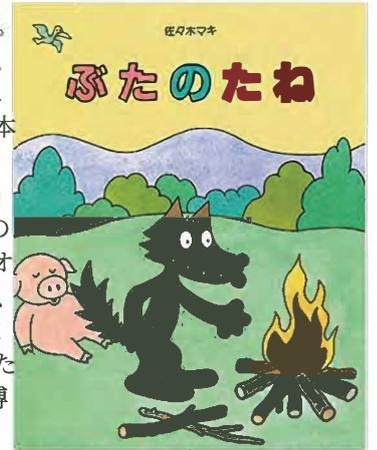
タイトルから気になる絵本だ。職業柄、絵本を読むことが多く、好きな絵本もたくさんあるが、この作品は、とにかく気になる絵本なのである。

何が気になるのか?わからないまま絵本を開くと、登場するのはオオカミ。しかも、足の遅いオオカミ。どれくらい遅いかというと、ぶたよりも遅い。しかし、オオカミはいつかぶたの丸焼きが食べたいと思っている。そこへきつね博士が登場。足が速くなる薬が欲しいと話すと、なぜか、ぶたのたねをくれた。たねを蒔くと、木にぶたがなるのだ。なんとシュールな内容だろう。こどもが読む絵本なのに、思いながら、読み聞かせると、じっと目を向けている。やはり子どもも気になるのだ。そして、クスクスと、笑い出す。

その後オオカミは、どうなったのか?お話の結末は、気になるものである。しかし、特に大きな展開もオチもない。と、言っては失礼になるだろうか。大きな展開もオチもないのだから、この登場人物の設定と、小さな奇想天外の展開の連続に、ユニークさが加わり、じわじわ笑いが込み上げてくるのである。そして、ついついまた読みたくなってしまふのだ。その結果、この本には、「またぶたのたね」「またまたぶたのたね」という続編が存在する。

特に感動し涙するわけで、読んだ後に考えさせられるわけでもない。でも、また読みたくなる、なんて、不思議な魅力だろう。気になった方は、ぜひ手にとって読んでいただきたい。

しかし、その際には、最後の結末には期待しないように。じわじわ笑いが込み上げてきたら、あなたも佐々木マキさんの世界観に引き込まれた証拠である。



放課後児童クラブメンバー保護者  
幼保連携型認定こども園 かがの保育園  
保育士 小森まゆ子

表紙の写真から



「はい!ポーズ!」と声をかけると、思い思いのポーズを瞬時にとってくれた個性豊かな金曜水泳のメンバーの様子です♪

最新情報はこちらでチェックできます!「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>

(2020年10月30日現在敬称略)

●維持会員

廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、淺沼誠久、花田暲、山崎詩織、林間つきみ、野教会、照井夏輝、光永尚生、釜ヶ澤亮、斎藤優太、魚住恵、accom-Ebon、川坂保広、ガイアリンク(株)、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、魚住英昭、清水治彦、若井淳、尾形裕一郎、高瀬稔彦、森山日菜乃、森山幹大、塚英彦、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、今野健男、今野聖子、南原良哉、伊藤眞一郎、伊藤みどり、石川菜、淺沼慧、淺沼美希、小川嘉文、小川明佑、阿部深雪、高橋友恵、濱塚有史、濱塚真美、武田理恵子、菅原歩藤、原依音、植田一茂、武田悠、向平悟、向平ちひろ、滝川佐渡子、戸貞文、田村治之、大久保里美、東森聡、田村育代、今野謙治、高橋奈菜、工藤悦子、大関靖二、小山憲彦、伊藤信彦、佐々木隆弘、水田賢次、及川茂夫、菊地弘生、水野暢夫、上中優奈、松尾聡子、増田隆

●寄附金

花田暲、山崎詩織、光永尚生、瀬川利恵、川坂保広、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、高瀬稔彦、今野健男、今野聖子、南原良哉、佐藤翔、高橋友恵、田村育代、及川茂夫、小笠原梨香、菊地弘生